



障害児に教育権の保障を

学校長 「県の教育予算を増やすしかない」

2月2日、春日井市の愛知県心身障害者コロニーの中の施設、春日台特別支援学校を訪問し、校長先生副校長先生から学校の様子をお聞きしました。

着て過ごすそうです。免疫力の弱い子ども達もいます。せめて健康を守り、快適に生活し、授業に集中できる環境を作ってやりたいものです。

それでも子ども達は明るくよく挨拶をしてくれました。学校に来てから帰るまでほとんどの時間を先生と過ごせることで、子ども達は安心して生活できているように感じました。社会に出て働けるよう実習が充実しています。調理実習、革細工作り、陶芸、木工作業など、社会に出て生きていける力をつけることも大切な課題です。

校長先生も「県の教育予算を増やすしかない」とおっしゃっていましたが、その通りです。

県政の視点を変えよ

愛知県はお金がないわけではありません。使い方がおかしいのです。

(表2)は特別支援校の予算を生徒人数から引き出した額です(文科省)。愛知県の予算は、全国トップの福井県の半分、全国平均の7割程度です。

1人当たりの額を全国平均程度に是正すれば、7千人が在籍する愛知県の特別支援校費は3割増、140億円増となります。県政がどこを重視すべきか明快です。

(表2) 生徒1人当たりの特別支援校費

福井県(1位)	10,741,590	円/人
全国平均	7,264,104	円/人
愛知県(46位)	5,325,103	円/人

文科省地方教育費調査:2012年度

(表1) 全国の知的障害特別支援校 マンモス校

順位	学校名	所在	生徒数
1	市立広島特別支援校	広島県	484人
2	県立半田特別支援校	愛知県	471人
3	県立春日台特別支援校	愛知県	458人
4	県立三好特別支援校	愛知県	427人
5	県立安城特別支援校	愛知県	425人
6	県立大幸府特別支援校	福岡県	424人

2015年5月1日現在

同校は、幼稚部・小学部・中学部・高等部合わせて458人の子ども達が通うマンモス校です。(表1)のように、愛知県は対応が遅れています。

設立当初は人数も少なかったため教室が足りなくなり、増築しても足りず、音楽室や美術室・放送室などの特別室を普通教室に使っています。そのため、楽器や道具など廊下に置かれている状況です。被服室は普通教室と兼用になっているため、子供たちの普段使うはずの机は廊下に並べられていました。それでもまだ足りない、ということで校長先生が「究極の部屋に案内します」と行った場所は広い食堂です。小中学生が給食を食べる場所。その一角が間仕切りされ、二つの教室が作られていました。図書室も間仕切られ、幼稚部の部屋に。驚くありさまです。

暖房は、ボイラーで沸かしたお湯をパイプに通して暖かい蒸気で部屋を暖めるようになっているらしいのですが、この設備も古く、全くと言っていいほど温まりません。子どもも先生も冬は一日中上着を



先生・児童と懇談する議員



止む無く食堂に2教室増やし急場しのぎ